

令和2年度農作物有害動植物発生予察情報 発生予報第6号（9月）

令和2年8月26日
山形県病害虫防除所

[概要]

園芸作物：**ももせん孔細菌病の感染量はやや多い予想です。**次年度の伝染源密度低減を図るため、収穫後防除を徹底してください。

果樹共通害虫の果樹カメムシ類の発生は多い予想です。園内をよく見回り、成幼虫の寄生や被害果が確認される場合は、防除を行ってください。

きゅうり炭そ病の発生量は多い予想です。降雨が続く場合には、薬剤の散布間隔があきすぎないよう雨の合間を見て防除を行ってください。

次回の発表は9月30日の予定です。

予報内容一覧

作物名	病虫害名	発生量
だ い ず	マメシクイガ	—
	ジャガイモヒゲナガアブラムシ	—
り ん ご	黒星病	平 年 並
	斑点落葉病	—
	褐斑病	—
	輪紋病・炭そ病	—
ぶ ど う	べと病・褐斑病	—
	せん孔細菌病	やや多い*
も も	輪紋病	—
	黒星病	—
	果樹カメムシ類 （り・も・な・か）	多 い
	ナシヒメシクイ（り・も・西）	平 年 並
西 洋 な し	モモシクイガ（り・も・西）	—
	果樹共通害虫	
日 本 な し	べと病・褐斑病	—
	炭そ病	多 い
果樹共通害虫	葉枯病	やや多い
	黒斑病	—
	さび病	—
	ネギアザミウマ	やや多い
夏秋きゅうり	シロイチモジヨトウ	やや多い
	ヨトウガ（ね・だ）	平 年 並
秋 冬 ね ぎ	オオタバコガ（夏・ね・だ）	—
	ハスモンヨトウ （豆・ね・だ）	やや多い
野菜共通害虫		
畑作物・園芸作物共通害虫		

（ ）内 豆：大豆、り：りんご、も：もも、な：なし（西洋なし、日本なし）、西：西洋なし、か：かき、夏：夏秋きゅうり、ね：秋冬ねぎ、だ：秋冬だいこん

* 感染量

山形県病害虫防除所	本 所	TEL 023-644-4241	FAX 023-644-4746
	庄内支所	TEL 0235-78-3115	FAX 0235-64-2382
山形県病害虫防除所トップページ		http://agrin.jp/menu/t/790/	
病害虫発生予察情報		http://agrin.jp/menu/t/563/	

山形県農薬危害防止運動実施中

実施期間 令和2年6月1日～8月31日

山形県では関係機関と連携して、農薬が最も使用される時期を重点に、農薬による事故防止と、より一層の農薬適正使用に向けて農薬危害防止運動を行っています。農薬の使用に当たっては、以下の点に注意しましょう。

1. 農薬の購入と保管管理に当たって

- ★農薬は農林水産省登録番号のあるものを、必要量だけ計画的に購入しましょう。
- ★購入時は有効年月を確認し、期限内に使用しましょう。
- ★農薬は盗難・誤用の防止等のため、鍵のかかる専用保管庫で保管しましょう。
- ★不用になった農薬を処分する場合は、農協や農薬販売店等にご相談ください。また、農薬の空容器、空袋等は、廃棄物処理業者に処理を委託する等適切に処分しましょう。

2. 農薬の使用に当たって

- ★ラベルに記載されている①適用作物、②使用量（希釈倍数）、③有効成分ごとの総使用回数、④使用時期（収穫前使用日数）等をよく読んで、記載事項を正しく守って使用しましょう。
- ★農薬散布に当たっては、事前に周辺の生産者、養蜂家、住民等に防除計画をお知らせするとともに、周辺ほ場の農作物や住宅地、公共施設、家畜、河川等への飛散・流出を防止するため、次の点に十分に注意しましょう。
 - ア 風の強いときを避け、風向に気をつけて散布しましょう。
 - イ 散布量が多くなりすぎないように気をつけましょう。
 - ウ 散布の方向や位置に気をつけて散布しましょう。
 - エ 飛散しやすい細かい散布粒子のノズルは使わないようにし、散布圧力は必要以上に上げすぎないようにしましょう。
- ★散布者自身の事故防止のため、農薬用マスク、保護メガネ、防除衣、手袋等を必ず着用するとともに、気温が高いときや、体調が悪いときは散布をしないようにしましょう。
- ★公園等で病害虫管理を行う時は、「公園・街路樹等病害虫・雑草管理マニュアル」（環境省ホームページで公表）を参照してください。

3. 農薬散布後は

- ★タンクやホースは確実に洗浄し、また、洗浄液が排水路や河川等に流出しないようにしましょう。
- ★農薬の使用月日、農薬名、対象作物名、使用量（希釈倍数）等を忘れずに記録し、保管してください。

4. 万が一の事故の場合

- ★農薬の誤使用等で健康被害が発生した場合には、応急処置を行い、速やかに最寄りの医療機関で処置してもらいましょう。

農薬の相談は：○食品安全衛生課(023-630-2160)

○農業技術環境課(023-630-3419)

○病害虫防除所(023-644-4241) 庄内支所(0235-78-3115)

○最寄りの各総合支庁各農業技術普及課

農薬情報は：○やまがたアグリネット(愛称：あぐりん) <http://agrin.jp/>

毒物・劇物の相談は：○最寄りの各保健所

・山形市保健所(023-616-7261)

・村山保健所(023-627-1248)

・最上保健所(0233-29-1257)

・置賜保健所(0238-22-3872)

・庄内保健所(0235-66-5478)

○健康福祉企画課(023-630-2662)

公園等病害虫等管理

マニュアルの相談は：○水大気環境課(023-630-2339)

1. 合成ピレスロイド剤等を使用する場合は、市町村農作物有害動植物防除協議会等で定めた地区に限って使用し、蚕・魚類に対する被害を防止する。
2. 耐性菌・抵抗性害虫の出現を防止するため、薬剤の選択及び使用回数に留意する。
3. **品種ごとの収穫時期を考慮し、使用時期（収穫前使用日数等）を厳守する。**
4. **農薬の使用に当たっては、登録内容（農薬使用基準）を遵守するとともに、隣接地や周辺作物へ飛散しないよう十分留意する。また、使用後は防除日誌の記帳に努める。**
5. 農薬の空容器や空袋等の処理は、廃棄物処理業者に処理を委託する等により適切に行う。

予報根拠中の記号 (+)：発生量を多くする要因 (-)：発生量を少なくする要因

I 普通作物

1. だいず

(1) マメシンクイガ

薬剤散布は8月下旬及び9月上旬（前回散布の10日後）の2回必ず実施する。
なお、莢に薬剤が付着しないと十分な防除効果が得られないので、ていねいに散布する。

(2) ジャガイモヒゲナガアブラムシ

8月25日現在の発生量は平年並であるが、今後の発生動向に注意する。なお、薬剤散布を行う場合は、薬剤が葉裏にも十分付着するようていねいに散布する。

II 園芸作物

1. りんご

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(1) 黒星病	平年並

1) 予報の根拠

- ア. 8月25日現在の発生量は平年並である。
- イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は少ないと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 伝染源密度低減のため、葉摘み時に発病葉、発病果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。
- イ. 薬剤散布予定日に降雨が予想される場合には、降雨前に防除を行うとともに、9月中も散布間隔があきすぎないようにする。
- ウ. 薬剤散布に当たっては、葉裏にも付着するよう十分な薬液量（500L以上/10a）でていねいに散布する。また、スピードスプレーヤにより防除する場合は、散布速度や散布経路に注意し、散布ムラを防ぐ。
- エ. 不必要な徒長枝はせん除し、樹冠内部への薬液の到達性を高める。

(2) 斑点落葉病

8月25日現在の発生量は平年並であるが、発生が多い園では、9月上旬～中旬に薬剤を散布する。

(3) 褐斑病

8月25日現在の発生量は平年並であるが、降雨が続くと発生が多くなるので、薬剤の散布間隔があきすぎないように防除を行う。なお、不必要な徒長枝はせん除し、樹冠内部への薬液の到達性を高める。

(4) 輪紋病・炭そ病

例年輪紋病の発生が多い園や炭そ病の樹上発病が見られる園では、9月上旬～中旬に薬剤散布を行う。なお、炭そ病の防除を行う場合は、効果のある薬剤を選定する。また、発病果は二次伝染源となるので見つけ次第摘み取り適切に処分する。

2. ぶどう

(1) ベと病・褐斑病

デラウェアでは9月上・中旬に防除を行う。大粒種では9月上旬に棚上面から防除を行うとともに、収穫後速やかに防除を行う。

3. もも

病 害 虫 名	予 報 内 容
	感 染 量
(1) せん孔細菌病	やや多い

1) 予報の根拠

ア. 8月25日現在の発生量はやや多い。(+)

イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は少ないと予報されている。(－)

2) 防除上注意すべき事項

ア. 次年度の伝染源密度低減を図るため、収穫後は速やかに無機銅剤を2週間おきに2～3回散布する。なお、薬剤防除前に発病枝（夏型枝病斑）はせん除し、適切に処分する。また、晩生種の混植園では、収穫が終わった品種から順次、手散布で薬剤防除を行う。

イ. 台風等により早期に落葉した場合は、落葉部位からの感染を防止するため、薬剤防除を徹底する。

4. 西洋なし

(1) 輪紋病

本病は9月も感染するので、9月上旬及び中・下旬にも防除を行う。

5. 日本なし

(1) 黒星病

8月25日現在の発生量は平年並である。園内の見回りを徹底し、発病果、発病葉は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

6. 果樹共通害虫

病 害 虫 名	対 象 作 物 名	予 報 内 容
		発 生 量
(1) 果樹カメムシ類 (クサギカメムシ・チャバネカメムシ)	りんご・もも ・なし・かき	多 い

<7月1日付け注意報第3号発表>

<8月24日付け発生速報第12号発表>

1) 予報の根拠

- ア. 8月25日現在の果樹カメムシ類の発生量は多い。(＋)
- イ. 8月後半の巡回調査の結果、りんご、西洋なし、かきで被害果が確認されている。
- ウ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は少ないと予報されている。(＋)

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 果樹カメムシ類の園内への飛来は、気温や湿度が高い日及び台風通過後に多くなる傾向があるので、園内を十分に見回り、寄生状況や被害果の発生状況に注意する。また、加害は収穫期まで長期間にわたるので、定期的に園内を見回る。
- イ. 園内で成幼虫の寄生や被害果が確認される場合は、薬剤散布を行う。なお、収穫開始時期を考慮し、農薬使用基準を遵守する。

病 害 虫 名	対 象 作 物 名	予 報 内 容
		発 生 量
(2) ナシヒメシンクイ	りんご・もも ・西洋なし	平年並

1) 予報の根拠

- ア. 8月25日現在の発生量は平年並である。
- イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は少ないと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

- ア. もも、西洋なしは特に被害を受けやすいので、園内をよく見回り、被害果は見つけ次第摘み取り適切に処分する。
- イ. 被害が見られる園では、薬剤の選定に留意して9月上旬の防除を徹底するとともに、収穫前の樹種では9月中・下旬にも防除を行う。
- ウ. 薬剤散布を行う場合は、薬液が樹冠内部の果実にも付着するようていねいに散布する。

(3) モモシンクイガ (りんご・もも・西洋なし)

8月25日現在の発生量は平年並であるが、りんご、ももは特に被害を受けやすいので、園内をよく見回り、被害果は見つけ次第摘み取り適切に処分する。また、薬剤散布を行う場合は、薬液が樹冠内部の果実にも付着するようていねいに散布する。

7. 夏秋きゅうり

(1) ベと病・褐斑病

8月25日現在の発生量は平年並であるが、降雨が続くと発生が拡大することがあるので、薬剤の散布間隔があきすぎないように防除を行う。なお、発病葉は取り除き圃場外で適切に処分する。また、適切な肥培管理を行い草勢維持に努める。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(2) 炭そ病	多い

1) 予報の根拠

ア. 8月25日現在の発生量は多い。(+)

イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は少ないと予報されている。(－)

2) 防除上注意すべき事項

ア. 薬剤散布は、薬液が葉裏まで十分付着するようていねいに行う。また、降雨が続く場合には、薬剤の散布間隔があきすぎないように雨の合間を見て防除を行う。

イ. 発病葉は取り除き圃場外で適切に処分する。

ウ. 適切な肥培管理を行い草勢維持に努める。

8. 秋冬ねぎ

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(1) 葉枯病	やや多い

1) 予報の根拠

ア. 8月25日現在の発生量は内陸地域でやや多く、庄内地域で平年並である。(+)

イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は少ないと予報されている。(－)

2) 防除上注意すべき事項

ア. 薬液が株全体に十分付着するようていねいに散布する。

イ. 降雨が続く場合は、薬剤の散布間隔があきすぎないように防除を行う。

ウ. 残さや被害株は伝染源となるため、圃場外に搬出して適切に処分する。

(2) 黒斑病

8月25日現在の発生量は平年並であるが、降雨が続くと発生が多くなることがあるので、薬剤の散布間隔があきすぎないように防除を行う。なお、薬液が株全体に十分付着するようていねいに散布する。

(3) さび病

8月25日現在の発生量は平年並である。肥料切れによる草勢低下や多肥栽培で発生が多くなるので、適切な肥培管理を行う。また、降雨が続く場合は、薬剤の散布間隔があきすぎないように防除を行う。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(4) ネギアザミウマ	やや多い

1) 予報の根拠

ア. 8月25日現在の発生量は平年並である。

イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は少ないと予報されている。(+)

2) 防除上注意すべき事項

ア. 雑草での増殖及び圃場への飛来を防止するため、圃場内及び周辺の除草を徹底する。

イ. 圃場をよく見回り、密度が高くなる前に防除を徹底する。また、薬液が株全体に十分付着するようていねいに散布する。

ウ. 薬剤抵抗性出現を防止するため、作用性の異なる薬剤グループを輪用散布する。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(5) シロイチモジヨトウ	やや多い

1) 予報の根拠

ア. 8月25日現在の発生量は平年並である。

イ. 地区予察圃場（酒田市）のフェロモントラップにおける誘殺数は、8月4半旬に急増している。(+)

ウ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は少ないと予報されている。(+)

2) 防除上注意すべき事項

ア. 圃場をよく見回り早期発見に努め、卵塊やふ化直後の幼虫の集団が見られる葉は取り除き、適切に処分する。

イ. 薬剤防除を行う場合は、幼虫の齢期が進むにつれ防除効果が低下するため、被害発生初期（葉の先端が白く透けた時）に散布する。

ウ. 薬液が株全体に十分付着するようていねいに散布する。

9. 野菜共通害虫

病 害 虫 名	対 象 作 物 名	予 報 内 容
		発 生 量
(1) ヨトウガ	秋冬ねぎ ・秋冬だいこん	平年並

1) 予報の根拠

- ア. 8月25日現在の発生量は平年並である。
- イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は少ないと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 圃場をよく見回り早期発見に努め、卵塊やふ化直後の幼虫の集団が見られる葉は取り除き、適切に処分する。
- イ. 薬剤防除を行う場合は、幼虫の齢期が進むにつれ防除効果が低下するため、若齢幼虫期に散布する。
- ウ. 薬液が株全体に十分付着するようていねいに散布する。

(2) オオタバコガ (夏秋きゅうり・秋冬ねぎ・秋冬だいこん)

8月25日現在の発生量は平年並であるが、今後、台風や低気圧の通過に伴い多飛来することがあるので発生動向に注意するとともに、幼虫や被害を確認したら速やかに防除を行う。

また、本種は他の作物も加害するので、周辺の作物も含めよく観察する。なお、被害部位（花蕾、果実、新芽等）や収穫残さは、内部に幼虫が生息している場合があるので適切に処分する。

10. 畑作物・園芸作物共通害虫

病 害 虫 名	対 象 作 物 名	予 報 内 容
		発 生 量
(1) ハスモンヨトウ	だいず・秋冬ねぎ ・秋冬だいこん	やや多い

< 8月26日付け発生速報第13号発表 >

1) 予報の根拠

- ア. 8月4半旬までのフェロモントラップにおける誘殺数は、県予察圃場（山形市）で多く、地区予察圃場（鶴岡市）でやや多い。（+）
- イ. だいず、かき、秋冬ねぎ等の一部の圃場では幼虫による被害が確認されている。（+）
- ウ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は少ないと予報されている。（+）

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 本種は畑作物、果樹、野菜、花き等多くの作物を加害するので、圃場をよく見回り早期発見に努め、卵塊やふ化直後の幼虫の集団が見られる葉は取り除き、適切に処分する。
- イ. 台風や低気圧の通過に伴い多飛来することがあるので発生動向に注意する。
- ウ. 薬剤防除を行う場合は、幼虫の齢期が進むにつれ防除効果が低下するため、若齢幼虫期に散布する。

[発生予察情報で使用される時期、量の表現の基準]

1. 時期

平 年 並	平年値（過去10か年の平均）を中心として前後2日以内
やや早い	平年値より3～5日早い
ややおそい	平年値より3～5日おそい
早 い	平年値より6日以上早い
お そ い	平年値より6日以上おそい

2. 量（発生量、発生面積及び被害量等）

過去10年間の値を、発生が多い順に下図のように並べ、本年の値との比較により求めます。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
←多い→	← やや多い →		← 平 年 並 →				← やや少ない →		←少ない→

東北地方 1か月予報

(8月22日から9月21日までの天候見通し)

令和2年8月20日
仙台管区气象台 発表

<特に注意を要する事項>

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

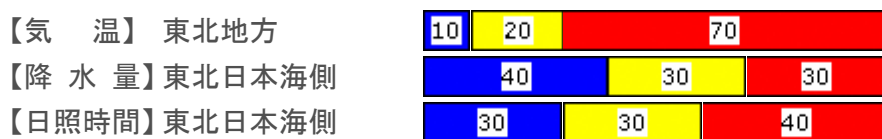
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

東北日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。

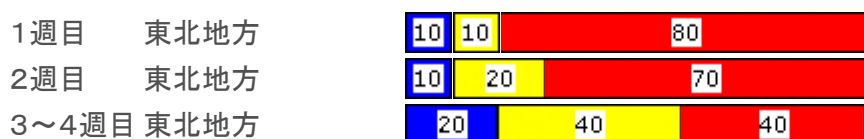
週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率70%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

- 1か月 : 8月22日(土)～ 9月21日(月)
- 1週目 : 8月22日(土)～ 8月28日(金)
- 2週目 : 8月29日(土)～ 9月 4日(金)
- 3～4週目 : 9月 5日(土)～ 9月18日(金)